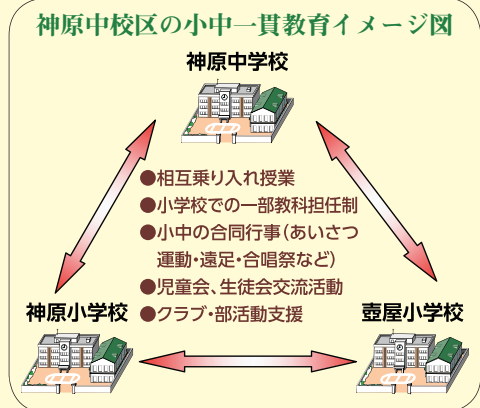


市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2012(平成24)年3月末現在	
総人口	320,145(2,176)
男	154,443(1,081)
女	165,702(1,095)
世帯数	138,940(1,256)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	

主な紙面

- 生活習慣病の正体
 - 島旅プレゼント!
 - 外食の際には
 - あれから40年
 - だまされないで
 - うまい話・やさしい
 - ことばにご用心
 - 情報バック
- 6 7 5 4 3 2



神原中学校長コメント

昨年度の先行的な取り組みを実践した率直な感想は、小中一貫教育は本当に良い取り組みで、本来こうあるべきだと実感したことです。これまで小中の教師の、子ども達に対する見方や考え方は大きく異なっていました。今回、その垣根を下げ、両方の良さを取り入れるために何度も話し合いを重ねました。

小中一貫教育で大きく変わるの、小中の教育目標が統一されるということです。教師の向かう先が一つになることで、子ども達も戸惑うことなく一つのゴールに向かうことができます。これは確かな学力の定着につながり、子ども達が不安なく成長過程を歩むことにつながります。

明日を担う大切な子ども達のために、小中一体となって見守っていききたいと思います。

小中一貫教育って何?

現在、小学校と中学校ではそれぞれのカリキュラム編成が行われ、学校の雰囲気や授業の進め方に大きな違いがあります。その環境の変化に適応できず、中学進学後に学習意欲が低下したり、不登校になるなどの問題行動が教育上の課題となっています。

そこで、小学校と中学校が一体となって、義務教育の9年間で目指す子ども像を共有し、子どもの成長に応じた学習指導、生徒指導を行うというのが小中一貫教育です。これにより中学進学時の不安を解消することにも、確かな学力の定着を図ります。また、小中合同で学校行事を行うなど、子どもたちの縦の交流を作り、尊敬や思いやりなどの豊かな心の育成、多様な人とのコミュニケーションによる社会性の育成もねらいとしています。

始まるよ

4月から、市内3小中学校(神原中学校、神原小学校、壺屋小学校)で「小中一貫教育」がスタートしました。

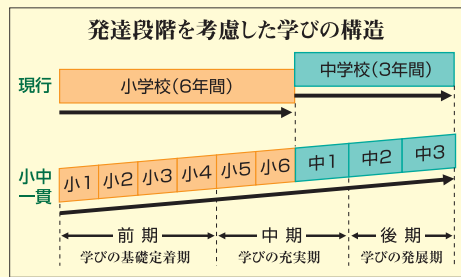
小中一貫教育では、小学校と中学校の9年間で一貫したカリキュラムで学習指導・生活指導を行い、中学進学時の不安を解消するとともに、確かな学力の定着を図ります。

平成26年度からは順次実施校を拡大し、平成28年度までに市内全小中学校で「小中一貫教育」が行われるよう取り組みます。



授業はどう変わるの?

子どもの心と体の発達段階に応じて、大きく小1〜4年生を前期、小5〜中1年生を中期、中2〜中3年生を後期として区切り、緩やかに移行しながら中学終了過程まで導きます。特に中期では、第2次性徴といった身体的変化が生じ、思春期に差しかかる大切な時期でもあります。小学校で培ってきた教師と子どもとの人間関係や信頼関係を保ちながら、少しずつ教科担任制へと移行し、「学びの発展期」となる後期へつなげていきます。



お問い合わせ 小中一貫教育推進室 ☎891-3510

児童の交流



去年、児童会役員として小中合同行事「平和宣言」に参加しました。中学校生徒会の先輩方と話し合いをして、考え方や行動力がすごいなあと感じました。今度は私が中学生として、小学校の子どもたちといろんな行事に取り組みたいです。

神原中1年 島袋希恵さん



一部の学校行事を小中一緒に取り組む、交流の幅を広げることにより、豊かな人間性、社会性を育みます。

教師の交流



小中の教師が合同で研修を行い、学習規律の確立や授業改善に取り組んでいます。例えば、授業の始め方、発表の仕方、聞く態度、ノートの取り方を小中で共通させ、教師が同じ研究課題に取り組んでいます。特にノートの取り方では、自分の考えをしっかりと持ち、表現できる子を目標に9年間かけて育てていきます。

小中の教師が合同で研修を行い、学習規律の確立や授業改善に取り組んでいます。例えば、授業の始め方、発表の仕方、聞く態度、ノートの取り方を小中で共通させ、教師が同じ研究課題に取り組んでいます。特にノートの取り方では、自分の考えをしっかりと持ち、表現できる子を目標に9年間かけて育てていきます。

授業

中学校教師が、小学校高学年を対象に、理科や英語、体育、美術などの乗り入れ授業を行います。

中学校の先生が来たら全然違う! 中学校の様子も聞けるし、ちょ〜楽しい!



Q「すぐりむん」推進

人はそれぞれ何か得意なものがあります。繁多川自治会では、その得意なことに「すぐりむん」認定をしています。例えば、繁多川の歴史に詳しい「ムヌシリ(物知り)」「すぐりむん」、地域の行事のデザインや企画などなんでもこ

Q自治会の紹介

繁多川は、明治42年に字識名から分離し今年で103年目を迎えます。繁多川自治会では、カーヒラシー(井泉清掃)や「豆腐の月」(豆腐作り)、昔ながらの地域の行事「若水汲み」を復活させるなど子どもから大人まで参加できる活動を増やして楽しい自治会を目指しています。

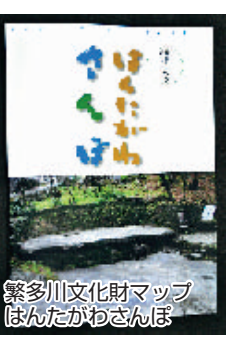
現在は、100周年の節目を記念して、繁多川の成り立ちや昔の地域の様子、文化財や旧跡、歴史や生活習慣などを分かりやすく記録に残し、読みやすい記念誌発行に向けて会員みんなで取り組んでいます。

繁多川すぐりむん

また、4月からウチナーグチ講座が始まりましたので、今年中には、みんなで作製した地域文化財マップ「はんだがわさんぽ」でウチナーグチでの「繁多川まーい」を成功させたいですね。

Q今後の取り組みについて

自治会を地域のみんながいつでも気軽に集まってくれるオアシスにしたいですね。



繁多川文化財マップ はんだがわさんぽ



市民・事業者・行政が支え合う協働のまちづくりに取り組む団体、個人を紹介します。

第15回 繁多川自治会

お問い合わせ まちづくり協働推進課 ☎861-3846